

エクセレント・レディ
亜紀

大津清志

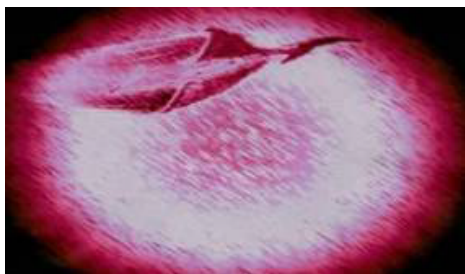
目次

第1章	3
第2章	9
第3章	15
第4章	21
第5章	27
第6章	33
第7章	37
第8章	41
第9章	49
第10章	53
第11章	57
最終章	59
あとがき	63

63 59 57 53 49 41 37 33 27 21 15 9 3

第1章

第1章



時は流れ今は西暦2267年、毎週世界各国（7カ国）の、宇宙センターから宇宙定期便が飛び立ち、また1週間位で帰還して来る、もちろんこの時代には現在ののようにスペースシャトルを世界が見つめる事もなく、ちょうど現在の国道か高速道を走る大型トラックの定期便感覚でしか見られていないのが現状である。

と言うのが、西暦2020年代に超電磁波利用法と反重力の解明、小型軽量最小化されたビッグバンの活用をいずれも1機の宇宙船に縮小搭載させることに成功（いわゆる核燃料の進歩型）し、宇宙船の形もスリムになり、丁度現在のコンコルドに似た先端部分が非常にとがった形で見えた目も格好いい飛行機のような宇宙船に改良されていた。

その頃亜紀（25才）は日本の宇宙船の初めてのファーストパイロットで月1回（7日間）月のMOONステーションへ行くのに加え、火星のマーズステーションに物資の配送と旅客運輸を正パイロットとして行っていた。宇宙船の名前は未来である。副操縦士は2人いて1人は35才の既婚男性で名は有紀。もう1人の副操縦士は28才の既婚女性である絵美。3人も東大の宇宙工学部を卒業していた。

特に亜紀は首席で卒業し、アメリカのオックスフォード大学へ行き博士号も取ったことを認められNASAで初めて女性宇宙パイロットとして、英才教育されたエリートである。日本の宇宙パイロットは正が7人（女性1人）副が32人（女性5人）。もちろん亜紀は世界で始めての女

性パイロットで、世界的に有名な宇宙工学博士であり、美しき女優のような顔とスタイルと、三拍子揃った美人パイロットであった。

今日も種子島宇宙センターから亜紀は亜紀の操縦する未来に物資を積み入れる様子を見ながら絵美（もう1人の副操縦士）有紀（副操縦士）とスチュワーデス3人でフライトにあたっての打ち合わせを管制塔下の部屋でしていた。

今日のフライトは、添乗員の他に客が120名、他に荷物の最大積載量が3000トンだから、未来はかなり大型の宇宙船である。最初MONNステーションへ行き2日間停泊し、次にマーズステーションに行き、そこでまた2日間の停泊、その後地球に帰還となるわけだ。

今日の荷物は火星での地下工用の資材がメインだ（月・火星は地下が居住基地）。月面及び火星表面を見れば分かるが非常に隕石（クレーター跡）の多い星なので、地下500メートル以内は危ないので、それ以上掘り進んだ所に居住地がある。そこに地球からハネムーンで来た若き新婚カップル、工事作業員、科学者、ふらっと一人旅の者、その他色々な人達が1人380万円まで1往復していた。さらにハネムーンは2人で600万円という格安パックもあった。快適な宇宙の旅を格安で満喫出来る時代になっていた。

excelent lady
aki



第2章

フライトまであと残すところ3時間というところで、突然NASAからTELが入った。実験中のワイプを解明出来たという連絡が宇宙工学者全員に入り、亜紀にも召集命令が下ったのであった。今までは第3宇宙速の5倍までは現在のコンコルド型宇宙船（NASA製）でも出したが、光速に近いワイプスピードは人間の第2の夢であった。

第1は反重力の解明であったが、この事については今まで人間はあまりにも深く考え過ぎていたので磁力の反発の意味が理解出来ていなかったのだ。と言うのが反重力の発見の遅かった理由なのだが、何でもそうだが、たとえば電気はプラスとマイナスで磁力もプラスとマイナスである。だが磁力は8方向である事に気付いた。亜紀は去年、宇宙工学会に1つの文書を提出していた。もしそれが認められればノーベル賞は間違いないくらいの科学文書で、今回、世界が宇宙工学のトップ技術陣を集めたのも、その亜紀の文書も何か受賞の対象になるとの事で、NASAから直に亜紀に連絡が入ったのである。

ある気体に光を当てたとき、グラデーシヨンの色対色が真空状態にどのくらい変化をもたらしか？ 溶け合う色は電気を通して、その物体は移動出来るか？ と言うのが当時の課題であったが、亜紀はこの地球上にはない、ある気体の中では、物質がある周波数の時にエックス（X）線及びガンマ光線を丁度CTスキャンするように筒型の寝台に人間が横たわると、中に入った人間は、これとまったく同じ用途の寝台からその人が、衣類、貴金属を着けたまま1光年先へ出てく